

知ちのかいたくの開拓

ひとつの「学び」から得た発見が、知の世界を広げてくれる出発点となります。
どのように学びを広げていくか、教える人と学ぶ人、
それぞれの学門分野について学びの出発点とこれまでをお聞きし、
そのヒントを探してみました。

授業風景



「皆さんの熱心な姿に刺激を受けます」と近藤先生

教える人
近藤 申一 先生

担当講座

「ユダヤ人問題—イスラーム圏のユダヤ人と英米両国のユダヤ人—」
「虚構「ユダヤ陰謀論」の歴史的考察」
「パレスチナ紛争—両当事者の主張と紛争の現状—」

プロフィール

早稲田大学政治経済学部元教授。1932年横浜生まれ。早稲田大学大学院政治学研究科修士課程修了。専門は西洋政治史。著書は『イギリス議会政治史(上)』(敬文堂)『西洋史30講』(共著。東海大学出版会)など。

近藤先生の 学びの提言

共著紹介



『ユダヤ大事典』
近藤申一他共著
新人物往来社
定価 714 円(税別)

信仰と神、生活習慣、政治経済、シオニズムなど、これを読めばユダヤ人の概要が分かる事典。パレスチナとの関係についても触れています。

おすすめ図書 ~私の本棚から~



『双方の視点から描く
パレスチナ／
イスラエル紛争史』
ダン・コンシャーポク、
ダウド・アラミー共著
岩波書店
定価 3,400 円(税別)

紛争当事者双方の視点から辿った一冊。ひとつの出来事に対する両者の主張に、大きな相違点があることが浮き彫りになります。

「イスラエル／パレスチナ問題に関する日本のマスコミ報道は、アラブ側に偏っている場合が多いので、それを鵜呑みにせず、いろいろな情報や文献を調べて自分で判断することが大切です」と凛とした声で語る近藤先生。講座ではユダヤ人問題やパレスチナ紛争に関連するテーマを中心に取り上げ、中立の立場で検証を行いながら、双方の歴史的認識を理解することに重点を置いています。「歴史学の魅力は、さまざまな側面から見ると、真実はひとつではない」というところにあります。特にイスラエルやパレスチナが辿ってきた複雑な歴史では、それが顕著に見られます。都合の良い資料だけをもとにして組み立てられた「歴史観」と、歴史学は全く異なるものなので、区別する必要があります。」

講座で配布する資料はほとんどが手作りで、外国の文献を先生が翻訳したものも多いそうです。その並々ならぬ熱意に応えるように、受講生のなかにはテーマに関連する論文を書いたり、「イスラエルを実際に見てみたい」と現地に足を運んだりなど、授業に刺激を受けて積極的に活動の場を広げる人もいます。また、先生の「偏った見方をしない」物事を両面から見よ」という考へに惹かれ、何年にも渡って継続的に講座に通っている人も少なくありません。「そろそろ引退を考えることもありますが、皆さんの熱心な姿を見ると、まだまだがんばらなくてはいけないという気持ちになります。教壇に立つて講義をしながらも、受講生の方からたくさんパワーをもらっているんですよ」と先生は頬をゆるめます。

最後に、受講生やこれから受講を考えている方に、次のようなメッセージをいただきました。「日本語には平均余命という言葉がありますが、これには少しネガティブな響きがあります。英語ではLife expectancy(と)言い、これから期待できる人生がどれくらいあるかを意味します。私の講座にかぎらず、この期間を勉強に費やすことで、新しい知識が得られ、人生が豊かになることをexpectできるのです。また、エクステンションセンターだけに生きている意欲が湧き出てくるでしょう。生きがいがあると、毎日が楽しくなるはずですよ。」

”多角的に物事をとらえ

歴史の真実を探求する

“

受講講座
「ユダヤ人問題」
—イスラーム圏のユダヤ人と
英米両国のユダヤ人—

学ぶ人
平木 正廣さん
(2009年入会)



大隈講堂の前で

杉原千畝のレリーフ
(早稲田キャンパス11号館と14号館の間)



“自分の見解を共有できる”

心地良い場で学ぶ楽しさ

平 木さんがイスラエルとユダヤ民族に興味を持ったのは、第三次中東戦争が始まった1967年のこと。「この戦争でイスラエルはたった6日間で、アラブ諸国の領土だったシナイ半島やゴラン高原、ヨルダン川西岸などを占領したのです。こんなことが出来るなんてどれほどの国なのかと驚きました。考えてみれば1948年の建国後、周囲の国から何度も攻撃されたのに生き残ってきた国。その逞しさにも感嘆します」と、この国に魅了された理由を教えてください。

以前から世界各地での反ユダヤ主義的な風潮に疑問を持っていたのですが、その考えを共有できるので、とても心地良く感じています。

「たい」と意欲を見せています。授業に積極的な姿勢でのぞむ平木さんですが、講座以外でもその行動力は変わりません。ニュースを確認したい時は、イスラエル大使館の広報部に電話をして、死海の水位低下を防ぐプロジェクトや通貨シケルの相場などを尋ねているとのこと。その情熱と豊富な知識には驚かされるばかりです。ところで近々イスラエルに行くご予定は？ 「来年あたりぜひ行きたいと思っています。ただの観光旅行ではなく、今まで学んできたことを辿る形にしたいですね。テルハイという都市にある建国の英雄、ヨセフ・トルンベルドルの墓も訪ねたいと思っています。彼は日露戦争後大阪で捕虜になっていた時期もあるんですよ」

その知的好奇心をさらに刺激したのが、2009年から受講している近藤先生の講座です。「先生からユダヤ人やパレスチナ問題に関する興味深いエピソードをいろいろ聞くことができるので、楽しいですね。また、私は

話を、「関連講座があったらぜひ受けたい」と思っています。彼は日露戦争後大阪で捕虜になっていた時期もあるんですよ」

人問題にも関心がありますが、ロシアのような大国と向き合う国家としての生き様にドラマを感じています」と話し、「関連講座があったらぜひ受けたい」と思っています。彼は日露戦争後大阪で捕虜になっていた時期もあるんですよ」

平木さんの
学びの履歴書

●受講科目 (☆は近藤先生の講座)

2009年 イスラエルと隣接アラブ諸国(地域)の内情を探る ☆

2010年 20世紀イギリス社会史
—英国人にとっての生活の豊かさや精神の豊かさとは？

2011年 イスラエル建国とパレスティナ ☆

ヒトラーとホロコースト(ユダヤ人大虐殺) ☆

パレスチナ紛争
—イスラエル建国から現在まで— ☆

2012年 ユダヤ人問題史上の諸人物
—コロンブス(アメリカ発見)から杉原千畝(ユダヤ人救出)まで— ☆

フリーメイソンとユダヤ人問題 ☆

イスラエルという国 ☆

日本と国際社会
—国際紛争とは何か?—

2013年 パレスチナ紛争
—史的回顧と現状概観— ☆

「第1次大戦下イギリスの中東2枚舌外交」神話 ☆

ユダヤ人迫害史上のあれこれ ☆

最近のドイツを知る

日本と国際社会
—国際紛争とは何か?—

2014年 ユダヤ人問題
—イスラーム圏のユダヤ人と英米両国のユダヤ人— ☆